

事業活動実績報告書

施設名	明昭第二幼稚園
教育理念	○子どもたち一人ひとりの個性・発見・発想を大切に生きる力の基礎となる丈夫な身体とやさしい心、人とかかわる力、たくましさ育てていく。 ○子どもたちの主体性を大切に、一人ひとりの個性、発達に応じた遊びを中心とした援助・保育をする。

事業の区分 (5領域)	健康 ・ 人間関係 ・ 環境 ・ 言葉 ・ 表現
1 事業名	SDGsを取り入れた保育(考える・意識する・実践する)
2 実施期間	令和 6年 7月22日 ～ 令和 7年 2月28日

3 取組概要	(取組日) 令和6年 7月22日 ～ 令和6年 8月27日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること ・SDGsプログラム「ちきゅうフレンズ」 第1回 オーストラリアと水 SDGsゴール3, 6, 13, 14 年長5歳児3クラス合同で2階ホールで、ちきゅうフレンズの絵本と映像を見ながらワークシートでオーストラリアの暮らしと文化、SDGsの問題を学習。水がなかったらどうなるかを話し合い、水の大切さを学ぶ。 1. 5ℓのペットボトルに水をためて手を洗い、どれくらいの水が必要かを体験。水道水で洗った時の水を洗面器に貯め、どれくらい水が無駄になっているかを確認し節水についても考える。 
	(取組日) 令和6年 9月20日 ～ 令和6年 9月20日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること ・移動水族館を園内2階ホールで実施。SDGsゴール14 海の豊かさを守ろうに関連して、海(川)の生き物カメ、コイ、カニとふれあい、生き物の命を大切にする気持ちを育む。(全園児対象) プラスチックの海洋ゴミを誤って食べ死亡するカメなどの海洋生物の話や、環境汚染や海洋生物の命の大切さ、海の豊かさを守るためにはどうすれば良いかを考える。買い物の際に海洋ゴミとなり、生き物を脅かすビニールを使用しない、エコバックを使うなど4. 5歳児に伝える。 
	(取組日) 令和6年10月21日 ～ 令和6年11月8日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること ・「ちきゅうフレンズ」の第2回 ケニアと生き物 SDGsゴール4, 14, 15, 16 年長5歳児3クラス合同でホールでちきゅうフレンズの映像を見ながらワークシートでケニアの暮らしと文化、SDGsの問題を学習。都市・近代化が進む中で住処を追われ、密猟の危機に瀕するケニアの森の動物たち(陸の生き物)の命の大切さについて話し合い、ふれあい動物園で実際に小動物とふれあうことで命の大切さを実感し、陸の豊かさを守るにはどうすればよいか、出来ることはないかをみんなで考える。 
	(取組日) 令和6年10月31日 ～ 令和6年10月31日 (実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること ・ふれあい動物園を園庭で実施。 うさぎ、ハムスター、ハツカネズミ、ヒヨコ、ヤギ、ヒツジ、ポニー、ヘビ、インコなどにえさをやったり、ふれあったりする。(全園児対象) SDGsゴール 15 陸の生き物の命の大切さを知り、やさしく触れる、関わるなどする。5歳児は陸の豊かさを守るにはどうすれば良いかをちきゅうフレンズ第2回のケニアの話も参考にしながら考える。 

3 取組概要	(取組日) 令和7年 1月14日 ~ 令和7年 1月14日	
	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること ・葛飾区清掃局の環境学習を実施する。(全園児対象) 園庭でゴミ収集車へのゴミ入れ体験を5歳児がする。3・4歳児はゴミが運ばれる様子を見学する。ホールで4. 5歳児はゴミの分別の話を聞き、実際に分別する。SDGsゴール 12、14、1. 2. 3. 6)。ゴミ問題は直接的には14つくる責任、つかう責任で扱うが、他の貧困、衛生、海の豊かさなどにもかかわる問題。資源利用のためにゴミの分別が必要なことやゴミを減らすこと、出さないことが大切で、これがフードロスの問題にもつながることを学ぶ。5歳児は、ちきゅうフレンズ第3回のシンガポール編で考えを深める。	
	(取組日) 令和7年 2月12日 ~ 令和7年 2月28日	
	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること ・「ちきゅうフレンズ」の第3回 シンガポールと人・第4回 総集編 SDGsゴール 1. 2. 10. 11. 12 年長5歳児各クラスごとに2階ホールで実施。ちきゅうフレンズの映像を見て、教材のワークシートを用い、シンガポールの暮らしと文化、SDGsの課題、貧困、飢餓、ゴミ問題について学ぶ。食べ物を無駄にしない、ゴミを減らすことなどについて話し合い、意識する。環境学習を思い出し、清掃車の絵本を使用し、ゴミがどこに運ばれるか、集積場がゴミでいっぱいであることを知り、ゴミを減らすことを考える。最後にまとめの教材でこれまでを振り返り、SDGs地球を守ることを意識し実行する大切さを再確認する。	
	(取組日) 令和 年 月 日 ~ 令和 年 月 日	
	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	写真添付 (区HPで公開が可能な写真を添付してください) 活動内容が分かるもの 取組に関するもの
	(取組日) 令和 年 月 日 ~ 令和 年 月 日	
	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	写真添付 (区HPで公開が可能な写真を添付してください) 活動内容が分かるもの 取組に関するもの
	(取組日) 令和 年 月 日 ~ 令和 年 月 日	
	(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	写真添付 (区HPで公開が可能な写真を添付してください) 活動内容が分かるもの 取組に関するもの
(取組日) 令和 年 月 日 ~ 令和 年 月 日		
(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること	写真添付 (区HPで公開が可能な写真を添付してください) 活動内容が分かるもの 取組に関するもの	

効果検証報告書

施設名	明昭第二幼稚園		
教育理念	○一人ひとりの個性・発見・発想を大切に生きる力の基礎となる丈夫な身体とやさしい心、人と関わる力、たくましさを育てる。○遊びを中心に子どもの主体性を大切に一人ひとりの個性、発達の姿に応じた援助・保育をする。		
事業の区分(5領域)	健康・人間関係・環境・言葉・表現		
1 事業名	SDGsを取り入れた保育(考える・意識する・実践する)		
2 事業概要	幼児向SDGsプログラム「ちきゅうフレンズ」を取り入れた保育活動年間3回とまとめ編を実施。世界とSDGsという視点で多様性を学び、子どもたちの世界観を広げる。地球を守るSDGsを考え、意識し、具体的な実践につなげていく。その他、陸・海のいきものを大切にするため移動水族館、ふれあい動物園を行い、いきものとふれあい命の大切さを実感する。葛飾清掃局の環境学習を実施しゴミの廃棄について学ぶ。食育で、食べものを大切にする気持ちを育てる。		
計画時	3 実施体制	取組に必要な環境(人員、事業の遂行に必要な技能やノウハウ等)の保有状況 ・「ちきゅうフレンズ」に必要な人員は5歳児担任とスクリーンとプロジェクターを操作する教員1名。 映像視聴し、教材ワークシートを選び、2階ホールやクラスで行う。プログラムに関連した活動を考え、実施する。報告書を作成し保護者に配布。家庭でもSDGsについて考え、意識し、実践につなげる活動ができるように協力をお願いする。 ・移動水族館、ふれあい動物園で生き物とふれあうことで命の大切さなどを実感する。 ・地域資源の葛飾清掃局の環境学習を利用し、食育活動も有効活用する。	
	事業後	3についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 ・オーストラリア、ケニア、シンガポールの生活文化にふれ、SDGsの問題を考える。映像を視聴し、ワークシートを園児に合わせて選び行うことで、SDGsへ理解・意識が高まった。学年で実施し、みんなで話し合うなど問題を共有できた。異文化に触れ、SDGsの課題を自分事として考える機会を「ちきゅうフレンズ」によりえることができた。 ・生き物に実際にふれることでやさしく抱く、さわるなど小さな命を大切にする気持ちが育った。 ・環境学習や食育は、ゴミの処理の問題、フードロスの問題を考える機会となった。 ・園児は異なるが「ちきゅうフレンズ」を2年実施したので今後、内容を考えて行きたい。
計画時	4 事業のねらい	・世界の文化にふれ、多様性を学ぶ。 ・世界のSDGsの課題を知り、SDGsの問題を意識し、自分ごととして身近に考え、出来ることをやろうとする気持ちを育てる。 ・陸の生き物、海の生き物とふれあうことで命の大切さ、環境保全の重要性を理解する。 ・「ちきゅうフレンズ」を利用した5歳児中心の活動から3、4歳児も体験できる活動を通してSDGsの問題を全園児が意識するようにしていく。	
	事業後	4についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 ちきゅうフレンズの教材で海外の生活様式や文化、SDGsの問題を日本の問題としても身近に考えることができた。また日本との違いから多様性を学ぶことができた。SDGsの問題をみんなで考え、話し合い、自分たちはどうすべきか、自分事としてとらえることができた。異文化にふれる貴重な体験となった。視野が広がり、みんなで話し合う機会が持て、人の意見を聞く、意見を言うなどの姿勢が身についた。全園児が体験する移動水族館、ふれあい動物園、環境学習を通し、3、4歳児もSDGsについて考える機会が得られた。 来年度は行動として、園児ができることはないか、SDGsにつながる活動を考えていきたい。

5 取組の内容	計画スケジュールを含む詳細な取組内容、経験させたい内容等 ・幼稚園・保育園向SDGs学習プログラム「ちきゅうフレンズ」を年4回実施。映像を見て、ワークシートにより理解を深める。関連絵本・紙芝居などの教材を利用し、SDGsにつながる実践活動を実施する。「ちきゅうフレンズ」を5歳児で実施。各回の問題をクラス全体で話しあい考える。 第1回 オーストラリアの水 7. 8月 園活動 ペットボトルの水と水道水での手洗い水量比較。 第2回 ケニアといきもの 9・10月 園活動 移動水族館、ふれあい動物園 第3回 シンガポールとゴミ・リサイクル 1・2月 園活動 葛飾清掃局ゴミ分別、清掃車見学。 第4回 まとめ ふりかえり 映像を見て、ふりかえり感想や大切にしたいことなどを話しあいSDGsの大切さを考える。 園全体の取り組みとして、移動水族館、ふれあい動物園、環境学習を全園児で体験することで命の大切さ、環境保全の重要性を知る。5歳児の学習内容を必要に応じ知らせる。
---------	---

事業後	5についての効果・検証 事業実績から推測される効果や改善点等 異文化や生活様式の違いなど多様性を学びながら、各国のSDGsの問題について、皆で考え、意識することができた。保育実践としてペットボトルの水で手を洗う体験を通し、節水の大切さを知ることができた。5歳児だけでなく全園児が海と陸の生きものとふれあう移動水族館、ふれあい動物園を通して、いきものの命の大切さを、かつしか清掃局のゴミ分別体験を通じて、SDGsにつながる資源の大切さ、ゴミをださないことの大切さを知ることができた。
-----	---

計画時	6 環境構成 ・幼稚園・保育園向SDGs学習プログラム「ちきゅうフレンズ」を実施。 2階ホールで5歳児が学年全体、クラスごとに映像視聴。パソコン、プロジェクターを用意。 ・「ちきゅうフレンズ」のワークシートを選択し、実施。 ワークシートを印刷し、園児に配布。ワークシート集を作成し、用意。 ・海外の文化や生活様式、食べ物、ダンスなどの映像視聴。(ダンスは踊ってみる。) 映像資料の他、各回のテーマに関連する絵本、紙芝居を用意し使用。 ・各回のプログラムをきっかけに活動を考え、実践したり、園行事を体験する。 ・全園児対象に移動水族館、ふれあいどうぶつ園、環境学習を実施。2階ホールのビニールプールや水槽(バット)でカメ、コイ、カニと園庭で小動物ネズミ、ヒヨコ、うさぎなどとふれあう。 清掃車へのゴミ出し、ゴミの分別体験をする。 5歳児は聴診器を使い、自分の心臓の音と小動物の心臓の音・鼓動を聞く。(人と同じ命の大切さを感じる体験。)
-----	---

事業後	6についての効果・検証 事業実績から推測される効果や改善点等 第1回と第2回はホールで学年で映像を見て、ワークシートに全員で取り組んだ。皆で異文化に触れ、SDGsの問題を考えることが出来た。3回目とまとめは各クラスでそれぞれのペースに合わせて学習する。関連活動としてはペットボトルに貯めた水で手を洗う、移動水族館、ふれあい動物園、環境学習体験を活用する。5歳児は、SDGsの問題を意識し、話しあい、活動体験をすることで身近な問題として実感することが出来た。聴診器を使った活動まではできなかった。 これまで5歳児のみが「ちきゅうフレンズ」で行ってきた活動を3、4歳児も行事を通して、SDGsにつながる活動を意識できてよかった。次年度は行動にうつせることはないかを考えてみたい。
-----	---

7	期待される効果 児童の姿 取組を通じて期待される児童の姿や効果等 ・世界のいろいろな人々と文化、生活様式にふれ、違いや多様性を意識する。 ・SDGsという地球上の誰もが考えるべき課題や環境問題にふれ、みんなで考え、できることをやろうとする気持ちが芽生える。 ・ものを大切にする気持ちやもったいないの精神が身につく。 ・ゴミの分別などのルール必要性に気づき、規範意識が芽生える。 ・移動水族館、ふれあい動物園の体験を通し、生き物の命の大切さを知り、生き物を大事に扱う、海や陸の生き物を大切にする気持ちが育つ。
事業後	7についての効果・検証 事業実績から推測される効果や改善点等 異文化に触れ、髪型、肌の色、民族衣装や踊り、食べ物などに興味・関心を持ち、世界を意識するようになった。SDGsの問題も皆で話し合い、考え、いろいろな活動を通して、自分事として身近に感ずることが出来た。移動水族館やふれあい動物園で生き物にやさしくいたわりながら触れる姿が見られ、命の大切さを感じる事ができた。ゴミ出し、分別体験をした後、家庭でもごみを分別し捨てていた。保護者にも分別の仕方を伝え、学んだことが実践されていた。今後広く、絵本や紙芝居、教材を活用していきたい。
8	効果検証 総括 事業を通しての感想、今後の教育・保育に向けて 世界の文化や生活様式、SDGsの問題を取り扱うプログラム「ちきゅうフレンズ」を活用することで多様性への学びにつながった。みんなで話し合うことで、海外の問題を身近な問題として意識し、考えるきっかけを持つことができた。 ちきゅうを大切にする心や人やいきものへの思いやりが育つ。 移動水族館、ふれあい動物園、環境学習を行事に取り入れることで5歳児のみの活動にとどまらず、3、4歳児もSDGsにつながる体験ができた。生き物(小さな命)に向き合い、やさしくふれあうことで命の尊さ、大切さを知り、ゴミの分別で資源の活用、ゴミ出し体験でゴミを減らすことを学び、それを家庭にも伝えることができた。 今後の教育・保育に向けては、継続的に実際に行動できることはないかを考えて行きたい。節水や節電についても考え、引き続き、園内で実行していきたい。他の事業の食育・造形・絵本育とも関連づけて、絵本や紙芝居などの教材を探し、積極的に利用していきたい。「ちきゅうフレンズ」にかわる教材プログラムを活用し、視野を広げたい。